

# Green Brave

## #52 埼玉 GB GR Supra GT4

2024年10月26日(土) ~ 27日

BRIDGESTONE

Super Taikyu

Japanese Endurance Race

ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 Empowered by BRIDGESTONE

第6戦 スーパー耐久レース in 岡山 (3時間レース) 岡山国際サーキット (岡山県美作市)

## ■■■ 2位に入り2年連続のチャンピオンを獲得 ■■■

スーパー耐久の第6戦が岡山国際サーキットで行われました。Green Braveは現在、#22 ポルシェに37ポイント差をつけ、ランキングトップを独走中。今大会の結果次第では、自力でのST-Zクラスのチャンピオンが確定します。予選日(土曜日)の天候は晴。Aドライバーの予選は13時55分から行われ、ジェントルマンドライバーの山崎選手が予選開始と同時にコースイン。3周目に1分36秒545のトップタイムをマークし、Aドライバー首位で予選を終えました。Bドライバーの予選は14時50分から行われ、吉田選手がコースイン。3周目に1分36秒298のトップタイムをマークします。その後、他車のクラッシュによる、赤旗中断を経て、残り9分で再開。#19 ポルシェ、#20Zが吉田選手のタイムを上回ったため、順位は3位です。しかし、両ドライバーの合算タイムにより、2戦連続の予選1位を獲得。ポールポジションポイント(2点)も獲得し、さらにチャンピオンの可能性が高まりました。

日曜日(決勝日)の天候は曇。チームは吉田選手をスタートドライバーに起用し、レースの展開を見ながら山崎選手、野中選手につなぐ3ステイント作戦を立案。服部選手はピットから無線で指示を送ります。吉田選手はトップをキープして1周目を終了。70kgのウェイトと性能調整が効いたGR Supraに後続を引き離す速さはなく、徐々に後退していきます。4周目に#34 アウディに抜かれて2位、21周目には#20Zに抜かれて3位へ。35周目からライバルがピットに入り始めますが、吉田選手は作戦通り走行を継続。48周目に再びトップに戻りますが、スタートから1時間半弱が経過した50周目にピットインを行います。山崎選手に交代し、6人の店舗メカニックがノーマスで給油とタイヤ交換を実施。51周目終了時点での順位は6位です。

山崎選手は5位の#20Zと7位の#26Zと激しいバトルを展開しますが、徐々に雨が降り始め、58周目には本降りに。#26Zは早々とレインタイヤに交換しますが、山崎選手はAドライバーの乗車時間(1時間)をクリアするために、ドライタイヤのままコースにとどまり続けます。山崎選手は集中力を切らさずにGR Supraをコントロール。63周目には#25Zを抜き、4位に順位を上げます。65周過ぎに雨は上がり、路面は再びドライへ。67周目から上位陣のピットインが始まり、山崎選手は81周目に3位に浮上します。1時間が経過した85周目にピットイン。野中選手に交代し、短い給油を行いピットアウトします。ドライバーチェンジにやや時間を要したものの、5位でコースに復帰。翌周には#25Zのピットインにより、4位に浮上します。野中選手はユーズドタイヤながら、約30分後のチェッカーを目指して力走。このま

決勝結果 (ST-Zクラス)

#52 埼玉 GB GR Supra GT4

(山崎 学/吉田広樹/服部尚貴/野中誠太)

決勝: 2位 (105周、3時間01分44秒012)

予選: 1位 (合算タイム: 3分12秒843)



の順位でもチャンピオンは当確ですが、表彰台を目指して周回を続けます。残り15分時点で3位の#555AMGと20秒のギャップがあり、逆転は難しいと思われましたが、100周目に9秒差となり、ピットの盛り上がりは最高潮に。残り6分でフルコースイエロ- (FCY) が導入されましたが、残り3分でレース再開。野中選手はファイナルラップの1コーナーで#555AMGを抜き、3位に上がります。ポジションをキープし、歓喜の3位チェッカー。レース後、2位に入った#21AMGが技術規則違反により失格となったため、Green Braveの正式結果は2位となりました。

## DRIVERS VOICE

## 山崎 学選手

2年連続でチャンピオンを取ることができ、いい締めくりができました。コース上では良かったのですが、ドライバーチェンジでちょっと時間がかってしまって。スムーズにやっていたら、最初から前に行けたというのもあったのですが、逆に見せ場を作った感じです。最終的に誠太くんがコース上で順位を挽回してくれて、表彰台をとれたので、終わり方としては本当に最高でした。スリック、レインというある中で、なんとか生き残ることができたので良かったと思います。

## 吉田広樹選手

スタートしてすぐのペースは悪くなかったのですが、途中からタイヤがきつくなりました。後ろはおさえられないだろうと思っていたところ、雨が降ってきました。タイヤを交換するほどの雨量ではなかったのですが、耐えるしかなく、無理せず、しっかりバトンをつなごうと思って走っていました。自分のスタントの後半はタイヤもコンディションも結構厳しかったですね。最終戦の前でチャンピオンを決められたのは毎戦取りこぼしのないように戦ってきた成果です。チームを誇りに思います。

## 服部尚貴選手

2年連続で ST-Z クラスのチャンピオンを獲得でき、良かったです。性能調整やウェイトの影響で、優勝が難しい状況なのはわかっていました。中でもチャンピオンの可能性がすごくあるレースで、自分たちができることを本当にうまくやりました。ラッキーな面もあったかもしれませんが、それも含めて今回はみんなが本当に良い仕事をしたと思っています。最終戦の富士は気楽な気持ちでのぞめますが、表彰台に登って終わりたいと思っていますので、最終戦も応援してください。

## 野中誠太選手

最終戦の前にチャンピオンを決めることができました。ウェイトを積み、厳しい性能調整がある中、タイヤ無交換で走っていたので、とても難しかったです。落ち着いて走ることができました。前のクルマが明らかにおかしかったため、トラブルが起きていたと思っていました。FCYが入りましたが、リスタートできれば、十分チャンスはあると思っていました。どのレースも本当に大きなミスなく戦うことができ、チーム力も素晴らしかったです。ドライバーとしてもいい仕事できました。

## ST-Z クラス決勝結果

順位	チーム	周回数
1位	TECHNO FIRST R8 LMS GT4 (アウディ R8 LMS GT4)	105周
2位	埼玉 GB GR Supra GT4 (トヨタ GR Supra)	105周
3位	NANIWA DENSO IMPUL Z (日産 Z NISMO GT4)	105周
4位	raffinee 日産メカニックチャレンジ Z NISMO GT4 (日産 Z NISMO GT4)	105周
5位	EBI GROUP Cayman GT4 RS CS (ポルシェ 718 ケイマン GT4)	105周
6位	BRP★FUNDINNO PORSCHE 718 GT4 RS (ポルシェ 718 ケイマン GT4)	105周

出走 11 台 トップ 6 まで

## ST-Z クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	52	埼玉 Green Brave	●
2位	22	Porsche Team EBI	●
3位	885	SHADE RACING	●
4位	34	TECHNO FIRST	●
5位	21	Hitotsuyama Racing	●
6位	26	TEAM ZEROONE	●

上位 6 位まで

【次戦】 第7戦 11月16日~17日 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

## Green Brave PARTNERS



赤城車体工業株式会社



株式会社アース・コーポレーション



株式会社アルシエ



株式会社 FM NACK5



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社西武ライオンズ



ティーズ・ワークス



株式会社デンソーソリューション



東京麒麟ビレッジサービス株式会社



トヨタホーム東京株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



有限会社 MY CARS



マックメカニクスツールズ株式会社



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC



株式会社リビコー